

建設現場を見学する参加者



須賀川 実証事業現場で見学会

CLTは、木の板を交差させて層状に接合した構造材。断熱性や遮音性などに優れ、工期を短縮できる利点があり、木材利用の促進

考えた。

ふくしま地域材活用協議会は11月29日、須賀川市で(仮称)南東北春日デイサービス新築工事CLT建築実証・設計実証事業の構造説明会と建設現場見学会を開いた。参加者は「クロス・ラミネーテッド・ティンバー」(直交集成板、CLT)と呼ばれる大型木材パネルを使った建物について

CLTの活用考える

とともに注目されている。説明会は建築物の施工性、実用性についての課題などを探ろうと開かれ、県内外の建築業関係者ら約130人が参加した。

見学会では、集成材の製造、加工などを行った藤寿産業(郡山市)の職員らが参加者に特徴を説明。参加者はCLTについて考えを深めた。講演会も開かれ、東京大生産技術研究所の腰原幹雄教授が国産木材活用の可能性を語った。